

アフガンの伝統文化「細密画」



教授と西垣さん

「宝塚・アフガニスタン友好協会」の西垣敬子さんが、アフガニスタン支援の一環として、アフガニスタンの伝統文化に触れて、現地の人々の窮状に思いを馳せて欲しいと、宝塚市立国際・文化センターで、2022年9月30日から10月4日まで「古都ヘラートの美Ⅱ アフガニスタン細密画展」(宝塚市、TIFA共催)を開いた。この夏に現地から届いたばかりの手仕事の結晶である。

イスラム主義勢力タリバンの政権下で、芸術活動への抑圧の中ヘラートに残り、伝統文化を守ろうとする人々の誇りを日本に紹介したいと、細密画家でヘラート大学教員のシュワイプさんの作品29点、同大学で学んだ3人の若い女性の作品18点を展示し紹介した。15世紀からヘラートに伝わるペルシャの物語を土台にした人物画や抽象的な図柄が、彩色鮮やかな顔料で、非常に細かく描かれていて正に細密画である。

彼女は1994年からアフガニスタンを何度も訪問し、女性の教育や自立を支援してきた。2007年に作った女子寮の封鎖が解け学生が戻って来たという朗報も届いたそうである。しかし、タリバンに対する国際社会の経済制裁でアフガンは深刻な財政難にあるとされ、「タリバンのもとでは女子教育はいちばん後回しにされ、最もしわ寄せを受けている」と話す。



TIFA

インフォメーション

事業のご案内

- ◎ TIFAは6委員会に分かれて活動しています。
- ◎ 広報、隔月発行のニュースレターの監修と機関誌の発行、講演会、姉妹都市コンサートなどの開催
- ◎ 国際協力、NGO支援、民間大使の活用。助成金の審議、学生ボランティアの活動報告会
- ◎ 交流、英語サロン、法人・団体会員懇話会、日本文化の紹介、多文化交流ひろば
- ◎ 生活相談、転入外国人才オリエンテーション、フリーマーケット、生活相談、異文化料理教室
- ◎ 事業企画、外国语コミュニケーション教室、短期語学講座
- ◎ 日本語学習、学習支援教室、日本語チューターレッスン・クラスレッスン、外国人日本語スピーチ大会
- ◎ 事務局、翻訳・通訳事業、外国にルーツを持つ子供の居場所づくり、多言語化、ホストファミリー事業、文化啓発事業、名画劇場、オックスブリッジ交流他

募集しています

- ◎ 新しい会員さんを募集しています。(入会金不要)。年会費 個人2,000円 団体5,000円 法人10,000円
- ◎ 外国からのお客様を受け入れていただくためのホストファミリーを募集しています。
- ◎ 次回の機関誌52号への皆様の投稿をお待ちしています。ホームステイや海外での体験や身近な国際交流にまつわる出来事など600字でどんどんお寄せ下さい。

★編集委員★

奥田啓子 加藤啓子 風早寿郎 杉本和子
酒井正人 寺本早苗 德田潤 福家清美

発行者 特定非営利活動法人 宝塚市国際交流協会 (TIFA)

〒665-0011 兵庫県宝塚市南口2丁目14番1-3号 宝塚市立国際・文化センター内

Tel : 0797-76-5917 Fax : 0797-76-5918 URL : <https://www.tifa.be>

～無断転載を禁じます～



TIFA機関誌 VOL51 2023.3.31発行

Takarazuka International Friendship Association

編集：(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)広報委員会

「共生社会の実現に向けての国際交流」



目次

TIFAへのメッセージ	今会員にできることは	2	啓発展を終えて.....9
ゴルバチョフ氏を偲んで.....3	異文化理解から多様性を考える.....10, 11		
地域住民と多文化共生.....4	民間大使委嘱式・サマーコンサート.....12		
盛り上がった法人・団体懇話会.....5	ときめき・写真でたどるTIFA行事.....13		
国際連携で水素社会を実現.....6	NGO展.....14, 15		
光陰矢のごとし.....7	アフガンの伝統文化「細密画」.....16		
日本語スピーチ大会.....8	TIFAインフォメーション.....16		



TIFAへのメッセージ 今、会員にできることは

元大使 田邊 隆一 氏

宝塚市国際交流協会の皆様ご無沙汰しております。

コロナ以前は毎年皆様にお会いし、世界の大きな流れをお話する機会を頂いておりました。いつも熱心に講演を聞いて頂き、講演後の懇談も実りあるものであったことを懐かしく思い出します。当時から私は冷戦が終わった1991年ソ連崩壊後の世界は2014年ロシアのクリミア併合が大きな転換期であったとの認識から「地殻変動の世界」という表現を使い始めました。国連安保理事会の主要メンバーが国際法を無視して主権国家の領土を力で併合し、これまでの世界を支えてきた地盤、全体が崩れたと感じたからです。同様に中国も南シナ海を自分の海にするべく国際法を無視して島々を占拠し、埋め立てまでしています。更に日本の領土である尖閣諸島を勝手に自国領土と主張し、日中間の緊張は高まっています。

このような大きな変化の中で、ロシアのウクライナ侵略が、昨年現実のものとなりました。戦後の国際秩序の基本原則を破壊するものであり、プーチン大統領は核の威嚇までも行っています。

この戦争を抑止できなかったことは大きな失敗です。悲惨な戦争の現実が続いており、今後もまだまだ続くでしょう。エネルギー危機、食料危機も続きます。北朝鮮のミサイル発射も続きますし、中国は通常兵器のみならず核兵器の大幅増強を行っています。朝鮮半島の緊張も高まるでしょうし、米中関係も最近の中国のスパイ気球撃墜事件や半導体を巡る輸出規制などにみられるように今後さらに厳しいものになると思います。米国の安保戦略は今後の10年が世界にとって非常に重要な10年となると指摘しています。2024年の台湾総統選挙に向けて中国の台湾への締め付けは更に強まるでしょうし、米軍幹部は中国が2027年までに台湾の併合を行うと考えており、場合によってはその時期は早まると思っています。

台湾有事は日本有事です。日本の周りには中国、ロシア、北朝鮮という核兵器をもった国が存在し、どれも権威主義的独裁国家です。独裁者の一存で全てが決まります。日本はこれらの国のミサイルなどの射程範囲に入っています。核の威嚇もあり得ます。今、日本は戦後最大の危機に直面しています。「自分の国は自分で守る」という当たり前の世界の常識を至急具体化しないと日本の独立も繁栄ももはや確保できない事態です。

今、日本国民一人一人に求められることは、ウクライナで起きている現実、そして日本の周辺国これまでの行動を冷静に直視し、世界はもはや「平和な世界」ではなく日本も「戦時下」にあるというくらいの認識を以て対処することが急務です。そのためには台湾に対する中国の武力併合を何とか抑止する必要があります、日本と米国と台湾がスクラムを組み、更に西側民主主義国とも連携、協力を深め抑止力を高める必要があります。ウクライナがロシアの侵略を押し返すことが出来るよう日本も更なる支援を行うべきです。

幕末に日本が欧米の植民地になりかねない中で、「独立自尊」の精神の下に植民地にならず唯一非白人として近代国家を創り上げました。現在の日本はまさにこの精神の下に国民が一丸となって、この国難に臨む必要があります。協会の皆様の活動は、このような状況の中ではますます重要となっております。更なる活動のご成功を祈ります。

ゴルバチョフ氏を偲んで

神戸学院大学元学長
谷口 弘行 氏



昨年(2022)年8月30日、ゴルバチョフ元ソ連邦大統領逝去の報に接した。91歳であった。1991年の政界引退後も、貧困や環境問題など「未来の世界」のために活躍されていた。私やかつての仲間たちは、忘れられない思い出がある。2003年と2005年の2度にわたり、私が勤務する大学へゴルバチョフさんを招くことが出来た。モスクワのゴルバチョフさんのもとへ、私たちが送った一通のメールから実現した。フォーラムのテーマは、「世界平和、戦争、グローバリゼーション」学生だけでなく近郊の市民たちも、多数駆けつけてくれた。おりしも神戸にゴルバチョフさんが到着したフォーラムの前日、2003年3月20日に米国によるイラク戦争が勃発した。翌日のゴルバチョフさんの話は、急遽イラク戦争から始まった。

多くのヨーロッパ諸国はこの軍事侵攻に反対している。国連安保理では3か国が反対している「冷戦が終わって10年、貧困や地球環境などの人間の安全保障の時代だ」と、この戦争の不条理を学生たちに語りかけた。イラク戦争は、2011年米軍の完全撤退まで8年間続いた。

19年後の今年2月24日、ロシアはウクライナへ軍事侵攻した。ご存命だったゴルバチョフさんは、自國の行動を「国際法の無視だ」と強く反対した。彼の戦争に対する姿勢は、旧ソ連時代からの政治的信念として貫徹している。

彼は、どの核保有国も言い出せなかった一部の核兵器の全廃を提案し実行した。中距離核戦力(INF)全廃条約の米ソ間での調印である(1987)。戦略兵器削減条約(START)と核軍縮へと進んだ。米ソ対立の冷戦構造を支える核兵器の削減に挑み、実行した政治家であった。30年後の2018年、トランプ米大統領はこのINF全廃条約からの離脱を表明した。現在世界は再び核軍拡へ進もうとしている。

1980年代のロシア社会は、革命後70年が過ぎ、非効率な経済社会と一党独裁的な政治体制のもと国民は活気を失っていた。54歳の若き世代のゴルバチョフは「自由化・民主化」を掲げ、その改革に乗り出した。ペレストロイカ(再建)政策である。グラスノスチ(情報公開)や言論の自由化へ舵を切り、国や公共団体が取り仕切る計画経済の改革を目指した。ただこの段階での自由化政策は、経験のない市場経済までは想定していなかったと見られている。2年後の2005年、ゴルバチョフさんの2度目のキャンパス来訪が実現した。学生との対話をベースにしたオープン・フォーラムと称し、テーマを「地域活性化とグローバリゼーション」とした。兵庫県知事や明石市長さんたちも参加してくれた。

現在のプーチン政権下でのロシアの未来は暗い。今回のウクライナ侵攻によってロシアは世界で孤立し、その経済も弱体化して行くであろう。何よりも、世界のロシアへの不信感を作りあげてしまった。ロシア連邦大統領プーチンは、大ロシア主義を掲げ、ソ連時代のKGB(秘密警察)の手法を駆使し、18世紀に大ロシアを実現したピュートル大帝を崇拝していると言われている。彼は、ロシア史上もっとも「愚かな」政治指導者の一人として名を残すだろう。今後の問題は、ロシアの国民の中にこそある。

「国民のレベル以上の政治家は出ない」歴史の教訓である。(国際生涯学習文化センター情報紙9月号掲載)

コロナ禍のため、私たちの生活は、課せられた行動制限や行動変容により、それまでの日常とは違った在り方を強いられてきました。今年3月に卒業する高校生が、人生に一度の高校生活は、友達に会えないリモート授業の期間があり、教室でもマスクを着用し発言が抑制され、修学旅行をはじめ多くの行事が中止になるなど、通常でないと思われる3年間だったようです。しかしそれが彼女たちの日常でした。決して「仮の」3年間ではなく、精一杯の学校生活であり青春の一時期でした。楽しい高校生活だったと、彼女は述懐しています。

若者も高齢者もすべての人たちが2度と経験しないかもしれない環境の変化の中で、生活を工夫し耐え、そして楽しみや喜びも分かち合ってきたのです。人生にはいつときでも「仮の」生活などあるはずがなく、私たちはそのときどきを精一杯生きることを学んできたように思います。

「今を生きる」とは、先人の言葉です。そんな強さを身に着けてきた私たちは、今後身の回りに何が起こっても、日本や世界を取り巻く環境がどのように変わっても、新たな生活や世界に希望を見出して行けるのだと思っています。

プロフィール
神戸大学名誉教授 神戸学院大学学長 国際政治学者
客員教授・客員研究員:
カリフォルニア大学、
オースティン大学 ベトナム・ハノイ社会科学院、
韓国威德大学

『地域住民と多文化共生』

武庫川女子大学教授 吉富志津代氏の「外国につながる市民の情報発信を考える～双方向のコミュニケーションが拓く可能性～」と題した講演を聞いた。

吉富氏はマイノリティーの視点に立つ活動団体のネットワーク作りを支援する NPO 法人「神戸・たかとりコミュニティセンター」を阪神淡路大震災後立ち上げ、多言語で情報発信するコミュニティ FM 局やアジア女性の自立を支援する NGO などの支援活動をしている。2011 年の東日本大震災では被災した外国人を支援し、外国人向けのラジオ番組制作、発信に関わり地元に「多文化が共生するコミュニティづくり」を根付かせた。多文化共生の街づくりに大いに学ぶところがある。

I. 災害は脆弱性を数値データで少なくできる。すなわち危険×脆弱性 = 災害を数字で表すと $10 \times 10 = 100 \rightarrow 10 \times 5 = 50 \rightarrow 10 \times 1 = 10$ というように危険は止められないが脆弱性は少なくできる。脆弱性が少なくなれば、災害が小さくなるということに気付かされる。災害時には住民同士が依存してはならないということである。それには多様な住民との住民自治意識が重要であり、最終的にコミュニティを強くすることが求められている。

II. 外国人のルーツを持つ住民に「心、制度、言葉」という三つの壁があるといわれている。そこには隠さなければならぬという心の壁があるのも現実である。では、外国にルーツを持つ住民はどの様な情報を求めているのか？例えば、ゴミ出しなどの生活上の情報、コロナ禍などの災害・緊急時の情報、税金還付など自分に有益な情報、観光やイベント情報などである。

では、次に何のために伝えるのか？ 例えば、納税やゴミ出しなどの義務を果たす、日本のマナーなど文化・習慣を知る、観光、イベントなど生活を楽しむなどのためである。日本社会の常識を知つてもらい双方向の交流へと繋げていく。

III. 今できることを考える。①今ある多言語は何か？ ② 情報の提供元はどこか？ ③どこに行けば情報が得られるか？など一方通行の提供だけではなく、双方向のコミュニケーションが必要である。様々な決定のプロセスにおいて、双方向の参画が必要であり、新しい情報を通じ双方向の交流が生まれる。

生活者として双方向のコミュニケーションに必要な要素は 3F(Festival Food Fashion)であるとも言われている。取り敢えず、3F を通じて地域住民との交流をさらに日常的に実践していくことが多文化共生への実現に向けての活動である。

(日本語ボランティア 奥田啓子)

多文化社会



TIFA の知名度 UP と仲間の広がりを !! 二つの願いを掲げる 大世古健治新理事長の心強いメッセージ



昨年、理事長就任からはや一年を迎えます。皆様の暖かい強い支援に感謝申し上げます。

国際・文化センター利用もコロナ以前より増えて、3月開催の法人・団体会員懇話会の嬉しい手ごたえや、NGO・TIFA 活動紹介展も 300 人超す大盛況です。勢いを止めず自分の為に、TIFA の為に、前進あるのみです。

35 年を迎える TIFA も知名度を上げて、市民や外国人との絆を深めたいものです。

原点に戻り懇親を深める法人・団体会員懇話会 3月4日 当センターギャラリー

当初は、TIFA がサポートを受けている法人・団体会員とは、毎年一回、活動報告や意見交換をしていたのを、近年は新春懇話会と名前を変えて、懇親を深める場にしていました。2020 年以降コロナ禍の為に TIFA 活動も多くが開催中止となり、新春懇話会も例外ではありませんでした。

コロナ状況が落ち着いてきた今、原点に戻って法人・団体の皆様と TIFA の活動を互いに報告し懇親を深めるという企画をたてました。(原田 永康)

- ・活動紹介 スライドによる視聴、参加者からは活動が良く分かったと大好評
- ・ミニ講演会 FM 宝塚 → 開設 20 年、地域に根付いた「わが街宝塚」の FM 放送について
- ・アトラクション 宝塚大学 → 健康維持に特化した「宝塚ウェルネスアカデミー」について
- ・アトラクション トリニダード・トバゴ生まれの珍しい楽器、スチールパンの演奏
- ・最後は乾杯 安里夫妻による美しい響きと、軽妙なお話
- ・反省 ノンアルコール・スパークリングワイン
- ・反省 来年はもう少し突っ込んだ活動内容が出来る場を設けたい

参加者の声・声・声

初めての企画を見事に仕上げましたね。法人・団体会員との絆も太くなりました。懇親会でも彼らからも同じ思いがあり参加して正解でしたとの言葉も有りました。当日の工程も順調で安原さんの見事な司会も更に会の成功に大きな力になりました。
大世古健治

1 団体あたり数分の紹介でしたが、それぞれの団体が各自で作成されていて、どのような活動をしているのかがよく判りました。インターネットの普及等により継続が難しそうですが、「FM 宝塚」は当クラブもお世話になっていることもあり、是非とも存続して欲しいものです。初めて懇話会に参加しましたが、今後とも皆様と交流させていただきたいと思います。
宝塚ワイズメンズクラブ 小林康男

スチールパンの演奏がとても素敵でした。あのような優しい音色だとは思っていなかったので、興味深く聞き入ってしまいました。充実した時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。
須田裕美子



今後、法人・団体の皆様に、TIFA を今まで以上に活用いただき、より良い関係が築けたら何よりもと思います。学ぶことが多かったです。
安原菜津子

山崎市長をエレベーターまで、お見送りした際に、次のコメントがありました。「交流協会は、いろんな団体と関係があるのですね」「ここは駅から近くていいですね」
木原正宣

国際連携で水素社会を実現

海水から水素、水素から電気！

竹永睦生 氏



神戸ポートアイランドに設置された
1MW水素発電実験所
大林組・川崎重工

2021年10月、国連グテーレス事務総長はCOP26を前に「我々は大惨事へ向かっている」と、世界に警告を発した。言われるまでもなく、私たちも多かれ少なかれ実感している。各国首脳は、温暖化ガス排出「実質ゼロ」などを宣言して取組みを強化している。しかしながら、それらの取組みでも温暖化が止まりそうにない、との不安と焦燥に駆られる。

どうすればよいのか。

以下に水素発電を軸とする解決策を提案したい。

温暖化の主たる原因是、大気中のCO₂濃度の増大である。

米国の研究チームが、南極の氷層に閉じ込められた空気粒を分析し、年代とCO₂濃度を調べた。その結果18世紀半ばからの産業革命以降大幅に増加し、温暖化の主原因と断定した。増加量は30%に達している。CO₂は、生物が生き続けるのに適する温度と、光合成による食糧生産、すなわち食べ物を与える最重要物質の一つである。CO₂濃度ゼロでは、地球はマイナス19°Cとなるという。ということは、私たち人間を含む地球上の動植物の生存に適したCO₂濃度があると推察される。国際連携のもとその最適濃度を探り速やかに移行しなければ、「大惨事に向かうことになる。

解決の第一は、人口（電力需要）の少ない地域で、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーを使って海水を電気分解して水素を製造し、人口（電力需要）の多い地域で水素発電に供する、新しいエネルギーサプライチェーンを確立すること。これによって現在の主たるエネルギー源である石炭石油発電を水素発電に変換し、CO₂排出量を抑制する。

ついで、紙パルプに利用可能なユーカリなどに、成長を速める大根などの遺伝子を組み込んで、大量に植林するなどによって大気中のCO₂濃度を適量まで低下させる。加えて、もう一つの大惨事の元と懸念されながら、これまで代替がないなどの理由で見送られてきた原発の廃止を水素発電に変換することで実現する。さらに進展著しい全固体電池の完成を国家事業として支援し、電動社会を実現する。これらの施策によって大惨事への道を絶つ。

原発の水素発電への変換には反対が多いと思われるが、1951年に最初の原発が稼働して以来、使用済み核燃料の処理法が見いだされていない現実をみると、速やかに水素発電に変換することが未来社会への責務である。

ご賛同頂けますか。

プロフィール
熊本大学卒、熊本大学大学院卒、元松下電器産業理事・技官、
京都工芸繊維大学副学長、大阪科学技術センター参与

光陰矢のごとし

オーストリア国家公認ガイド Ipp 常子 氏

2022年は、リヒヤルド・栄次郎・クーデンホーフ＝カレルギー伯爵没後50周年です。カレルギー伯の母は青山光子で、次男です。光子は7人の子供を強い信念と忍耐力で、皆を育て上げました。光子の足跡をたどりながら、宝塚における国際交流の在り方を考えるIpp常子氏の講演会を開きました。難問の国家公認ガイド資格を取得して、ウィーンを中心に観光・通訳で大活躍されている彼女自身のレポートです。

1973年10月からウィーン大学への留学のため、9月にウィーン到着。しかし不思議な縁というか、私はウィーン到着24時間以内に主人と知り合い、その一年後に、彼と国際結婚。3児の母となり、日々の子供の成長と共に、家族と一緒に過ごした夏のバカンス、お正月、子供たちの学位授与、就職、結婚・・・主婦として、親として誰しもが歩む長い様で短い人生の道。しかしある日、突然私を襲った恐怖とは、結婚以来、気が付いてみると子供たちはすでに独立し、巣立ったのです。一日中、私はただただ、明日を眺めて、夢も希望もなし。やって来た時代はコンピューターの世界。PCに弱い私には仕事も出来ず、これで人生は終わりと思うと、悲しみの余韻のみが後を追うばかりです。

そんな時、リリーンと電話が鳴り、まさかこんなに幸せを呼ぶとは・・・実は友人からの誘いで、暇な私は直ぐにチェコの国境近くまで車を飛ばし、群衆の人込みのレツツの街に。「今からガイドツアーが始まる」ということで、私たちも参加すると、再度ビックリ。胸に国家公認ガイドのバッヂが太陽に輝き、まぶしいぐらいでしたが、そのガイドの顔は70歳ぐらいの男性でしたが、もっと輝いていたの

です。しかも片足。それでも土と砂の凸凹地下を2時間ばかり、松葉杖でご案内。思わず、私は自分の2本の足、10本の指、しかもまだ55歳を過ぎたころで、ハイヒールとワンピース姿の私にふと目を。今まで、自分を悲観していたけど、片足のガイドさんと出会い、勇気が湧き、難問の国家公認ガイド資格取得。

しかし、この仕事も9・11事件やコロナ禍での生活のように、観光客なしでは、大変困難な職業。すでに60歳近くでは・・・そう安易には・・・そこで、私は2009年にロングステイ社を設立し、独自のガイドの道を歩み・・・オーストリア、ウィーン、ハプスブルグ帝国、美貌の皇妃エリザベート、音楽の都、芸術の都、現在も四季を問わず、世界一のオペラ座の舞踏会、ニューイヤーコンサート、食文化など、どれをとっても素晴らしい、このウィーン、オーストリアを是非日本の皆様にご紹介したく、北は北海道から南は鹿児島まで、毎年各地を講演。現在は7人の孫に囲まれ、日本の美、オーストリアの美のページをこれからも捲ってゆきたいと思っている昨今です。



第26回宝塚市外国人
日本語スピーチ大会
出場者のコメント



K.S さん (台湾) (優秀賞)

勇気を出して参加してよかったです。スピーチ大会への参加者がそんなに多いのは思わなかったですが、緊張感を克服して、スピーチをよくできたと感じています。今回のスピーチ大会は私にとって、いい経験になりました。ありがとうございました。

A.F.E さん (カナダ)
(スピーチ大会賞)

It was very well organized. It was a great chance, thank you so much! ありがとうございました。またチャンスがあったら、らいねんもなんかしたい!

O.S さん (中国)

スピーチの前どきどきでした。スピーチが終わり楽になりました。いろいろな国の人といっしょに日本語を勉強してたのしいです。



G.H.C さん (ベトナム)

TIFA の皆様へ このようなスピーチ大会を開いていただき、ありがとうございました。

B.N.D さん (インド)

とても、たのしかったです。

T.U さん (中国)

とても緊張していましたが、大変勉強になりました。他の方のスピーチがとても面白くて、来てよかったです。

K.S さん (中国)

私は緊張して不安でした。みんなの話はとても面白かったです。日本語ももっと勉強して来年また参加したいです。

G.B さん (フィリピン)

はじめてスピーチ大会にさんかして、とてもどきどきでした。でもなんかしてよかったです。ありがとうございました。

C.X.H さん (ベトナム)

とてもいいいけんでした。ずっときんちょうしましたが、それこそじぶんがもっとがんばらないといけないことをわかるようになりました。おつかれさまでした。

G.S さん (ネパール)

今日、スピーチ大会にさんかしてよかったです。

O.E さん (中国)

半年以来、自己の能力を検証する珍しい経験です。宝塚市国際交流協会のおかげで、それから、鈴木先生のおかげで、私の日本語話す能力毎日上達になっています。誠にありがとうございました。

C.S さん (イギリス) (優秀賞)

I enjoyed the event. It was very interesting to see stories and ideas from many different people.

Y.S さん (中国)

このスピーチ大会がむずかしいと思いました。たとえば、文章をれんしゅうすること、自己PRをかくことがむずかしいと思いました。

スピーチ大会開催できました！

第26回宝塚市外国人日本語スピーチ大会がコロナ禍を経て無事開催できました。小学3年生から20歳を超えた幅広い年齢層、そして9か国・地域からの出場者13名。日本で働くことの難しさ、言葉の壁そして学ぶ喜び…が聴衆の心に伝わりました。

提言者 金明姫さん
(キム・ミョンヒ)



第26回 宝塚市外国人 日本語スピーチ大会

宝塚市異文化相互理解事業は、宝塚市 (特)宝塚市国際交流協会 宝塚市外国人市民文化交流協会の三者が、毎年主催する事業で、①講演会、②啓発展、③語学講座 ④料理教室、⑤外国人日本語スピーチ大会の5事業がある。今年度の啓発展は、「ひとびとの移住」日本列島へそして宝塚地域には のテーマで、2月23日～28日、国際・文化センターにおいて開催された。アンケートには10代の若者もいて、参加者も300人を超えるという大盛況ぶりであった。



啓発展を終えて

本田 芳孝

「数は少くとも、的を絞ってかえって分かりやすくなっていると思います」(50代)

「韓国籍、朝鮮籍のことが良くわかりました。今まで知らないことでした」(50代)

「創氏改名、韓国籍・朝鮮籍のお話、とてもわかりやすかったです。知らない事だらけですが、教えていただけてありがとうございます」(年齢は不明)

「教科書よりも詳しく分かりやすかったです。ハングルのパネルはすごく面白かった」(10代)

「歴史について分かりやすくまとめられたパネルを見て、じっくりと学ぶことができたり、韓国の実際の装飾品を間近で見ることができ、宝塚や韓国のことについてよく理解することができました」(10代)

「ハングルや発音に関する知識やピースマスクという自分の知らない取り組み、考えを知りました。特にピースマスクをよく見ると、自分と少し似ている顔があったりして、とてもおもしろかったです。自分も参加してみたいです」(10代)



今回の「啓発展」は例年なくパネル数を絞った展示に変更、あらたに金明姫(キムミョンヒ)さんのピースマスクと野田秀樹さんのハングルとKポップなどの展示が加わった。それに、何よりも大学生によるバイオリン演奏、中学生によるKポップダンス、フラダンスのイベントを企画した。初めての試みだったのでどうなることかと気をもんでいたが、生の演奏やダンスを身近に見ることでその迫力に圧倒されていた様子だった。

感想にも「予想以上に本格的な演奏だった」「体全体で演奏していて迫力があった」「ダンスが良かった」「初めて見て圧倒された。また見たい」と概ね好評を得ることが出来たようだ。

なるだけ、日本のなかでも宝塚における在日コリアンの果たしてきた歴史を、さらに現状について基本的な史実を若者をはじめ多くの人に知ってもらうことを狙ったものだった。

どこまで達成できたかは単に来場者の数だけで決まるものではないが、とりあえずは一步踏み出せたことにしよう。

またイベントの最終日には、韓国からこられたペ・イルトン氏(名唱)とキム・トンウォン氏(鼓手)のパンソリ(伝統的民族芸能)の公演があり、87人の来場の中、韓国の伝統芸能を披露していたとき会場は大きな拍手に包まれ皆さん満足されていた。



「異文化理解から多様性を考える」

—共生社会の実現に向けて— 講師 ウスビ・サコ 氏



2月13日、宝塚ソリオホールにおいて開催された講演会。参加者は約163名。

副題は、”地域に外国ルーツをもつ多様な人々がくらす今日、多様性と人権を尊重し共に生きる社会の為に必要なことは何かを考える”という講演を聞いて。

第1章 初めに

とても流暢な日本語で、「1991年に日本にやってきました」と、にこやかにスタート。私たちは、母語は一つの言語という概念を考えがちですが、私の話せる言葉は、バンバラ語、マンディガ語、しかし母語のソニング語は話せません。公用語はフランス語、第1外国語は英語とロシア語、留学して中国語と日本語を学び、現在は生活言語です。多くの言葉と接したことは、日常生活の言葉の育成に、多大な影響を与えました。3月末で日本滞在も丸31年となりました。初めて訪れた時の日本は、企業も個人も自信に溢れ、海外に目を向けていたように思われます。当時と比べると私の住む京都では、少子化と高齢化が進んで空き家が増え、いくつかはマンションに建て替えられて地縁的なコミュニティが変容しました。居住する外国人も増え、祇園祭をはじめとする地域の祭祀では京都在住の外国人やその子どもたちの姿も目立つようになりました。当初は、私の母国マリでは時間はゆっくり流れていますので、日本人の厳格な時間感覚に戸惑うことが多く、日本独特の人間関係にも苦労させられましたが、研究や仕事を続けるなかで日本への関わりと理解が深まっていきました。未熟な若者の私は、やがて多くの人々を巻き込みながら国際社会への理解を深める活動にも従事するようになりました。今では手ごたえを感じるようになりました。文化の芯の部分を大切にしつつ、外来の変化に対応してきた日本で、新しい共生社会のモデルの実現ができたと考えている現在です。

第2章 「共生社会」の実現にはいくつもの課題があります。

まず、国際化とグローバル化とは異なります。国際化は、国対国（国民）、あるいは1カ国対複数の国の関係、国境線によって区切られた各国の社会が相互に緊密に結びつき、活発な相互作用を強めていくプロセスのことと、グローバル化（地球規模化）は、個や特定集団が国の概念を超えて存在し、価値はそのネットワークで判断され、1国のルールや政策で決めるにくく、情報と技術発展が鍵になる社会です。ものに価値がおかれるため、ものによって人の価値が判断される危険性がある。

グローバル化の可能性は、人、物、情報の世界規模の行き来、知と技術の世界規模の共有（頭脳共有）。労働力の世界規模の共有（労働力共有）。新市場主義と人間の価値基準の変化。ハイブリッド、グローバルカルチャーの出現と普及。AI、IoT、ロボットなどの技術革新（第4次産業革命）の進展によりライフスタイル、コミュニケーションと価値観（人間関係）の変化。人工知能と人間の仕事の関係性。人間尊厳の問題（人格・人権を超えた問題）（地域紛争・民族対立・差別の課題）などがある。

日本社会における多様性（ダイバーシティ）と多文化共生の課題

・共生社会の実現と多様性、多様性を重んじる社会へは、コミュニケーションが課題で、人間は文化というメディアを通してしか意味ある行為も相互作用もできません。

多様性とは、人種、性別、宗教、性的指向、社会経済的背景、民族性など、個人間に存在する違いを指します。つまり、オールドカマーとニューカマーの位置づけ。留学生1983年10万人、2018年30万人計画にみる多文化共生の課題。異文化認識と文化スキームについては、個人体験と多様性、他者と出会う、自分を再発見、私の目的は同化ではなく居場所開拓であって、共存による共生社会

の実現が目的でした。

- ・主体性と協調性の両立が大事 意見を言わないので美德、物事を批判的に捉えない、人に合わせることがトラブル少ない、信頼関係の作り方に困りやすい、自主性がない、コミュニケーション（話す・聞く・尋ねる）が難しい、能動的に行動しない、批判的思考の大切さを考えない。

第3章 世界の現状を把握する

グローバル（人財）つまり国際（外国人）労働者を考えてみよう。日本語と日本文化の素晴らしさを教えていけば、外国人労働者を受け入れ共存していくことは可能ではないのか。2050年の世界を考えると、世界人口の増大が鈍化し97億人に、2100年頃に110億人で頭打ち。高齢化率は40%近くになる。しかし、サハラ以南アフリカのほとんどの国と、ラテンアメリカ、カリブ地域の一部の国では、生産年齢人口（25～64歳）が早いスピードで増加する。これは「人口ボーナス」と呼ばれる。

第4章 互いの価値観を認め合う「共生社会」

「共生社会」の実現に必要なことに日本語教室、グローバルとローカルの組み合わせ、ダイバーシティの実現、リベラルアーツ教育の役割などが大きい。

終5章 京都精華大学学長としての数値的目標

大学の改革⇒理念の再確認と実現、留学生⇒40%、外国人教員の割合⇒30%、外籍職員の割合⇒5%、女医役職者の割合⇒30-40%、多様化カフェ食堂の数⇒5カ所、ダイバーシティとSDG's⇒5年以内に全面的適用、ダイバーシティ推進センターを2017年に発足し、翌年推進宣言をした。

終章 グローバル社会の中で人間はどう生きるべきか

社会基盤の変化と個が中心になる社会、個人の集合体である社会でアイデンティティ重視が大切。

グローバル化とアイデンティティ

生まれてから死ぬまで、ひとつの文化・社会のなかで過ごすというモデルは、グローバル化によって揺らいでいる。暮らしや学び、仕事のなかには、あらゆる国の人・物・仕組みがあふれ、もはや自国の常識だけにすがることは難しくなった。

そして、軸となるアイデンティティがわからなくなったり、崩れたりしてしまっている人が、世界中で増え続けている。現代はまさに、アイデンティティ・クライシスの時代なのである。「日本人」というアイデンティティも、例外ではない。それは、教育や伝統によって引き継がれてきた意識にすぎず絶対的なものではない。社会学者のリチャード・セネットは、自国の文化をしっかりと見定めたうえで、身のまわりにある異文化から理解していくことが、肝心である。自信のなさの裏がえしから、排他的になりかねない。まずは足元の文化に目を凝らしてみると、実は、たくさんの異文化がそばにあることに気がつくはず。なぜなら、文化は、核を保つつも、常に時代の変化とともに異文化と溶け合ってきた、結晶だからである。

グローバル人間とは、世界に向けて開かれた人であることである。自分の足元をしっかりと見つめ、身近な異文化を理解することからはじまると考えている。真のグローバル人間を育成するには、自国の文化と向き合うことが重要である。日常のなかにある異文化に気づくことが重要である。異文化に触れ、他者と共生する。

コミュニケーションの重要性

古代ギリシアの哲学者ソクラテスは、徹底的に対話を重視した人である。彼は、知らない人だらうと誰かれかまわず議論をふっかけ、その場でしか生まれないコミュニケーションによって、理解を深めようとした。（福家 清美）

ウスビ・サコ氏（Dr. OussoubySACKO）プロフィール

京都精華大学前学長／全学研究機構長／人間環境デザインプログラム教授

マリ共和国生まれ。国費留学生として北京语言大学、南京東南大学で学ぶ。91年来日、99年京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了。博士（工学）。専門は空間人類学。「京都の町家再生」「コミュニティ再生」など社会と建築の関係性を様々な角度から調査研究している。京都精華大学人文学部教員、学部長、2018年～2022年学長を経て現職。

民間大使委嘱式&座談会

11月23日、当センター第2会議室にて、委嘱式を開催。参加者10名(民間大使11名のうち7か国参加)。座談会では一人3~5分で自己紹介と活動報告をしました。

これからは民間大使間の交流を!!

民間大使 金采映

コロナがまだまだ続いている中で、幸いに今年も民間大使の皆様が一堂に会する事が出来ました。例年通り授与式の後、座談会を行いました。今回はそれに加えて、長年にわたって民間大使として一緒に活動をしてこられたパキスタン出身のイクバルさんが亡くなられた事を伺って、私たちはとても悲しく思いました。その為、みんなで黙禱と小さな偲ぶ会を設けました。今年度は、コロナ禍で集まる事が少なくて、お互いの安否も判らないまま過ごしてきましたので、これからはメンバー同志の交流を深めるための集いを増やしていくように願っております。



サマーコンサート 少しお休みを

夏になるとTIFAのサマーコンサート! 年に一度宝塚市民が、兵庫芸術文化センター管弦楽団のプロが演奏するクラシック音楽の美しい室内楽の調べに魅せられて集う様になりました。こんなに宝塚市民に人気になったサマーコンサートですが、最初のきっかけはTIFAの大先輩榎原氏が楽団員の一人と居酒屋で一緒になったことがきっかけだったと言います。知り合った楽団員はTIFAで日本語を学ぶドイツ人(クリストフ)。共通の趣味でスーパー銭湯「宝乃湯」で裸の付き合いが広がり、TIFAで日本語を学んだ御礼にコンサートをと。

最初は、TIFAのギャラリーで、たった4人で始まったそうです。その後クリストフがドイツに帰国し一時中断したものの、榎原氏との親交は続き、クリストフの友人ピーター氏にバトンは引き継がれ、その後エド、マイケル等がバトンを引継ぎ、回数を重ねて合計11回、観客も増えて場所もTIFAから公民館、ベガ、ソリオと大きなホールを満席にするようになりました。演奏途中での自己紹介で、たどたどしい日本語で挨拶するのも人気となりました。



演奏会風景

当初はTIFAで日本語を学ぶ外国人演奏者と我々が自宅訪問や「宝乃湯」での文字通りの裸の付き合いの延長の中での演奏会でしたが、近年外国人演奏者、日本語学習者が減る傾向となり、そのため演奏者側の取りまとめ役も日本人演奏者が務めることが多くなってきており、本来の外国人演奏者がTIFAの日本語教育に対する感謝で開催すると言う趣旨が少なくなっていました。そこでもう一度原点に帰って、サマーコンサートを外国人演奏者が自発的にできるまで一時中止とすることにしました。

しかしながら善意の絆で始まったサマーコンサートの灯は消えることなく、近いうちに再び燃え上がり再開できることを我々TIFAは願っており、努力していきたいと思っています。(交流委員会)

ときめき

韓国語講師 金美子 氏



私が宝塚市国際交流協会で、韓国語の講師としてお世話になった年が、確か2001年頃だったと覚えております。

当時は、そもそも“韓流”という具合の良い言葉などなく、今後の講座の運営に頭を抱えていました。ところが2003年頃に運よくドラマ“冬のソナタ”的ブームが到来します! 渡りに船で講座はトントン拍子に決まり、あれよあれよという間に定員オーバー。第一次韓流ブームを経て、KPOP、コロナ禍のNetflix普及に伴う“愛の不時着”ブームにBTS。現在は第3、第4次ブームとも言われています。

しかし、かつてのイ・ミョンバク大統領あたりから、微妙な日韓関係になり繋りが見え始めました。さらには“嫌韓”ブームが巻き起こる始末です。私はこの20年間、生き証人のように、この“韓流”と“嫌韓”、文化と政治、歴史の挟間を漂ってきたように思います。ある時は潮が引いていくように受講生がいなくなり、講座の存続すら危ぶまれました。しかしその都度支えになり協力してくださったのは、この韓国語講座の修了生や協会の方々でした。

これからも韓国と日本が政治に翻弄されようとも、人と人との結びつき、絆がどれほど強固なものかを身をもって伝えていきたいと思います。またこれこそ真の“異文化の交流”だと思います。私の一語一句を聞き逃すまいと懸命に追いかける受講生たちの眼差しに、ぶつかり合った時、えもいえぬ「ときめき」を覚え身震いしてしまいます。

外国人のためのオリエンテーション 「防災」・「梅の花を見る会」



防災 12月3日、外国人の家族そろって、3才児や6才児にもわかるやさしい日本語で、小道具も用意されて、防災について楽しく学びました。(左)



梅の花を見る会 2月26日、中山寺の梅林公園には約1,000本の梅の木があります。お寺を見学した後、梅の花を楽しみました。(右上)

フリーマーケット

3月10日、NGO活動紹介展と一緒に第2会議室で実施。入場制限するぐらいのひと・ひと・ひとの波。

1人5点以内と制限したぐらいです。
収入は48,721円。外国人支援のために役立てます。
(右)



拡げよう 助け合いの輪 !

NGO 活動

フィリピン AKAY プロジェクトとともに創る会

JAC 日本はアジアの国々と共に



宝塚ワイスメンスクラブ



ネパール教育開発機構



日本ベネスエラ友の会 宝塚



活動紹介展



活動報告会

小ホール

3月
11日(土) 10時15分～
12日(日) 11時15分

NGO : 5つの団体

→ 紹介展
ギャラリー

3月
11日(土) 10時15分～16時
12日(日) 10時15分～15時

TIFA: 6つの委員会

もっと知ろう TIFA の活動 !
もっとみんなで TIFA 活動 !

TIFA 活動

広報委員会



交流委員会



国際協力委員会



事業企画委員会



生活相談委員会



日本語学習委員会



外国人支援フリーマーケット
生活相談委員会による



ギャラリー風景

あなたもできる国際協力 !

お楽しみタイム

パラグアイハープ演奏

11日(土) 11時半及び午後
於ギャラリー 演奏 野中みさえ



北インド古典舞踊

12日(日) 13時半～ 於ギャラリー
演舞 ナリニ・トシュニワル



11日(土) 第2会議室

15